JAL美郷連携プロジェクト

町と日本航空株式会社（JAL）は、
環境保全活動の推進や地域活性化等を目的に、連携協定を締結しています。
七滝「水の森」植樹事業での協働活動のほか、6月から7月にかけて
「JAL美郷水環境保全キャンプ」や「ラベンダーまつりJAL交流イベント」も開催されました。

JAL美郷水環境保全キャンプ

７月６日から７日にかけてJAL美郷水環境保全キャンプが開催され、日本航空の社員20名が来町しました。キャンプは同社が推進する「きれいな空気と水を守る環境活動」の一環。清水や真昼岳の清掃活動のほか、農業体験などを通じて地域住民との交流を深めました。

名水市場湧太郎で行われたオープニングセレモニーでは、松田町長が「協定を結んだ美郷町の魅力を肌で感じてほしい。お互いの距離を縮め、交流のネットワークがさらに広がることを期待している」とあいさつしました。続いて、同社の藤田直志専務執行役員が「世間に知れ渡っていない町の魅力がまだまだ多くあると思う。体験活動を通じて隠れた魅力を引き出し、インターネットなどを活用して情報発信に協力したい」と応えました。

参加者たちは、３班に分かれて久米清水、御台所清水、藤清水を移動し、清水周辺を清掃しました。また、地域住民に清水の由来や普段の利用方法を尋ねるなど、興味深く聞き入っていました。

清掃活動後には、山菜採りやサクランボ・アスパラガスの収穫などを体験。収穫した食材は夕食の交流会に提供され、参加した地域住民らと共に美郷の食を堪能しました。

キャンプに参加した同社の山口真梨絵さんは「地域の方々に温かく接してもらえて、居心地の良さに感動した。自然や観光、特産品、人柄など美郷町には誇れるものがたくさんあると思う。今回体験したことを、会社の仲間たちなどに広く発信したい」と話してくれました。

ラベンダーまつりJAL交流イベント

町と同社の連携協定を多くの人に知ってもらうとともに、町のラベンダーをPRするため、６月29日から７月15日の美郷町ラベンダーまつりの開催に合わせて「ラベンダーまつりJAL交流イベント」を行いました。

期間中は羽田空港、大阪伊丹空港、秋田空港で町のラベンダーを展示したほか、PR用のチラシなどを配布。さらに、秋田空港では空港の利用者へ「ラベンダーしおり」をプレゼントしました。しおりの表面には押し花にしたラベンダー、裏面には町のオリジナル品種である「美郷雪華」の写真がそれぞれ入っています。同社の社員がしおりを手渡すと、受け取った人たちは「きれい」と声を上げて喜んでいました。

また、最終日の15日にはパイロットや整備士の制服を貸し出しての「なりきり撮影会」を開催。同社の客室乗務員も制服姿で登場し、満開に咲き誇るラベンダーを背景にして来園者と一緒に記念撮影を行いました。

なりきり撮影会

ラベンダーしおりを配るJAL社員

育てる命　収穫する喜び

首都圏在住者や町内園児たちが農業を体験しました

農業体験ツアー

美郷町の農業や農産物をPRするとともに、農業を通じて首都圏在住者と交流を深めようと、６月29日から30日にかけて農業体験ツアーが開催されました。本ツアーの開催は昨年度の秋に続き２回目。友好都市である東京都大田区を中心に参加者を募集したところ、前回のリピーターや参加者からの口コミなど、22名が参加しました。

大台野広場での歓迎式では、松田町長が「私たちの生活を支えているのは農業。私たちは目で見える安全・安心な農産物で命をつないでいる。美郷町の農業を体験して、国内の農業を守っていこうという気持ちを持ってほしい」と述べ、参加者を歓迎しました。

町産牛肉でのバーベキューを堪能し、ラベンダー園内を散策した後は、２班に分かれて町内の民宿で農業体験を実施。農家の指導を受けながら、水田の除草作業や、イチゴ・アスパラガス・ニンニクなどの収穫を行いました。

ツアーの受け入れ先である町都市農村交流推進協議会の吉方和衛会長は、コメの有機栽培について「有機栽培の田んぼには虫や雑草が多いのが特徴。収量は落ちるが、孫の代までの健康を考え、安全・安心なものを生産している」と紹介。参加者たちも水田に足を踏み入れ、大粒の汗を流しながら除草作業に取り組んでいました。

大田区から参加した工藤英明さんは「生産に八十八の手間がかかるという『米』の字の由来のとおり、草取りなどの地道な作業が、おいしいコメ作りを支えていることを実感した。今後もツアーに参加して、田植えから収穫までの一連の流れを体験してみたい」と話してくれました。

ソラマメ収穫体験

６月28日に、本堂城回の農地で町内３幼稚園・保育園の５歳児たちがソラマメの収穫を体験しました。この収穫体験は、園児の給食に食材を提供している農事組合法人「TEAM（チーム）.Freedom（フリーダム）」が、園児の食育につなげようとソラマメ畑を解放し、収穫の機会を与えてくれたものです。

園児たちは畑の中を駆け回ったり、葉をかき分けたりしながらソラマメを探し、大きく育ったソラマメを見つけると歓声を上げ喜んでいました。

収穫後、袋いっぱいに詰め込んだソラマメを園に持ち帰って皮をむき、塩ゆでしておやつの時間に堪能。自分たちの手で収穫したソラマメを頬張ると、満面の笑みをこぼしていました。

同法人の細井千代文理事は「最近は調理された状態のソラマメしか見たことがない子どもが多いと思う。生産現場を知り、収穫の喜びを体験してもらうことができてよかった」と話してくれました。

◀絵本のソラマメと実物のソラマメを見比べる園児たち